

1月3日 成人式が開催されました

1月3日、すこやかセンター伊野で成人式が開催され、20歳を迎えた274名が成人の仲間入りをしました。式典に参加された新成人の方々は、久しぶりの再会に互いの近況を話したり、記念写真を撮ったりと成人となった喜びを分かち合っていました。

式典では来賓の祝辞を受け、伊東竜矢さんが、「社会の厳しさを知り、責任を自覚するとともに、自ら気づき、考え、実行する力を身に付け、理想の自己の実現のために進んでいきたい。そして郷土の発展のため、活力あふれる社会をつくるため、力を尽くしたい」と謝辞を述べられました。また町からの記念品を、新成人を代表して筒井七美さんが受け取られました。

今年は、新成人の主張に2名の応募がありました。レディントン香さんと、前原麻美さんの当日の発表を以下に掲載します。

成人の主張 レディントン 香

人生とは、短いものです。20歳の私たちは、人生のおよそ四分の一をもうすでに生きてきたということになります。そういう見方で見てみると、人生は本当に無駄にはできないなあと思わされます。命の大切さや日々の一分一秒がどれだけ大切なのか、私たちはあまり理解できていないのではないのでしょうか。このように健康な体で生きられるということが、どんなに恵まれていることなのか、生きるということ、素晴らしい奇跡なのだということを、私の頭は分かっています。この世には、生きたくても生きられない人が数えられないほどいます。毎日、死を恐れながら生きていかなければならない人がいます。食べ物もなく、ろくに着る物もない人たちが、私たちの生きている同じ地球に存在するのです。こんなに恵まれている私たち。私たちは、自分たちの人生が奇跡の結晶なのだということを、分かっていません。

今、このように好きなだけ体を動かすことができることは、神様がくださった大切な宝物です。年を重ね80、90歳となると、体も弱り、衰えてしまいます。体中に痛みを抱え、若いときのようにうまくはいきません。年を戻すことはできず、もう二度と若くなることはありません。また、どんなにこの世に功績を残した人や多くの人から尊敬を受ける人でも、死を逃れることはできません。だからこそ、今を大切にすべきだと思います。友達とふざけて笑い合えること、人と時間を過ごせること、思いっきり走れたり自由動き回れること、自分の目で綺麗な空や景色が見れること、働けること、そして若い今だからこそできることがたくさんあります。だから一日一日、一つ一つの思い出を、毎日を大切に生きていくべきではないかと思えます。

「今」は今だけしかありません。2012年、1月3日、今日という日は、どんなに願っても戻ってくることはないのです。一度しかないこの日、そしてこの人生です。だからこそ、私たちは日々一分一秒を感謝しつつ大切に、悔いのないように生きていくべきだと思います。

私は、ある方に出会うまで、人生を自分の思うまま、適当に生きてきました。でも、その方を見て、その方が他の人のために尽くす姿を見て、そのような生き方が、将来自分の生きたい生き方だと、確信しました。自分を顧みず、人のために捧げて生きる生き方です。何としても人を助けてあげたい、笑顔にしてあげたい、人生の大切さ、素晴らしいさを分かっていたほしいと願われたのです。人を心から愛し、思いやりをもって他人を大事にするその方の姿を見て、私の心は動かされました。

からこそ、私たちは日々一分一秒を感謝しつつ大切に、悔いのないように生きていくべきだと思います。

私は、ある方に出会うまで、人生を自分の思うまま、適当に生きてきました。でも、その方を見て、その方が他の人のために尽くす姿を見て、そのような生き方が、将来自分の生きたい生き方だと、確信しました。自分を顧みず、人のために捧げて生きる生き方です。何としても人を助けてあげたい、笑顔にしてあげたい、人生の大切さ、素晴らしいさを分かっていたほしいと願われたのです。人を心から愛し、思いやりをもって他人を大事にするその方の姿を見て、私の心は動かされました。

その方に出会い、私の目は開かれました。生きていく中で、今までなら気にも留めなかったことなどを考えさせられるようになりました。悔いのないように生きていくためには、自分だけのために生きていくのではなく、他の人が助けを必要としているとき、知らない人にも自分から進んで手を差し伸べたり、他の人のことを思いやりながら生きていく必要があるということを教えられました。自分のことよりも他の人を優先し、他の人と助け合って生きていくことが私たちの幸せなのです。

私たちが恵まれているこの恵みは、私たち自身のためだけのものではなく、恵まれていることを理解し、私たちが受けた恵みを他の人にも分け与えることができるようになるためのものです。

20歳、人生の大きな節目のこの年、これからどう生きていくか。まず私たちは、家族、友達、先生方、周囲の方々がいたからこそ、ここまで来れたことを理解し、これからは、一人の大人として、人のために尽くす人生を送っていきたいと思います。2012年の成人の私たちが思いやりのある年代として、この世に、私たちの良い足跡を少しでも残せたらいいなあと思います。これをもって、私の成人の主張とさせていただきます。